

# 水色の天使「日常」



あるところに孤独で70歳となる男が居ました。

彼は若い頃から仕事に没頭し、目標だった1億円の貯蓄を手にしていました。

しかし妻には5年前に先立たれ、子供たちは遠方に住んでいました。

独り淋しい日々、思い浮かべるのは家族で過ごした頃のことばかり。

ある晩、枕元に水色の天使が降り立ち彼に言いました

「あなたを淋しさから救いましょう。家族と過ごした日に戻して

あげましょう。戻すと言っても夢を見させてあげるだけですよ」

彼は「そんなことが出来るならば例え夢でも・・」と大喜び。

天使「では戻りたい日をリクエストしてください。

しかし1晩で100万円を頂きますよ」

彼は「えっ！お金を・・・でも淋しさから開放されるならば・・・

では40年前のお正月の日に戻してください」

天使は大きく頷くと・・・彼は深い眠りに落ちていきました。

翌晩、また水色の天使が現れ、彼は興奮ぎみに昨晩の夢のリアルさや

懐かしく嬉しかったことを伝えました。

そしてまたリクエストを出しました。

そしてまた次の日も次の日も・・・

次第に彼のリクエストはイベントの日よりもりふれた日常の日々を指定するようになりました。

そして何の魅力もない日常ばかりをリクエストする彼に天使は

「せっかくの高額な買い物なのに、家族旅行した日やお祭りや

結婚式の日のような日を選んではどうですか？」

と聞くと彼は静かに言いました

「ありふれた日常の中にこそ幸せがあったんだ、

今ごろ気がつくなんて・・・」

作者：鳥越介順

# おじぞうさんたより

Vol.161 2018.7月

## 暑さのお見舞い申します。

どうぞご自愛下さい。



ありがとう ありがとう



街いつしょに保険を選びましょうオフィス鳥越

## 昨年の自分を 瞬間に越える方法

私は仕事が忙、前年の書類を見ると機会も多いため、そんな時に

前年に作った書類の中にある自分の名前のサインを見ると、なんと汚い字、かなり慌てて書いた字、心無い字を見てがっかりする。

そして今年の書類にはゆくゆく丁寧に字を書こうと書き始めた時、まさにこの瞬間、昨年の自分を越えた気になれる。

ただ字を丁寧に書くだけで...

## ひとつから

今日の日は私が孤独に苦しむ老後に枕元に現れた水色の天使にお金を払って見させてもらっている今日かもしれない。

だから特別な日ではない今日に、日常の中の幸せを感じて感謝したいと思ひます。

